

アンケート 2

佐世保高専 J A B E E 関連企業・大学院アンケート

(専攻科修了生に関するアンケート)

1 調査の目的

本プログラムの「学習・教育到達目標」の各項目について、本校の技術者教育プログラムを修了した学生（専攻科修了生）が実際にその能力を身につけているか（「学習・教育到達目標」を達成しているか）を企業の直属の上司、大学院の指導教員に評価していただき、その結果を本プログラムの教育改善に資する。

2 調査対象

・企業 550社

本校「求人検索システム」に2014年度新卒者（平成26年3月卒業者）を対象として求人を登録している企業（公務、教育、卸・小売等の業種を除く）及び平成20年3月から平成25年3月専攻科修了生が就職した企業

・大学院 51大学院

平成21年3月から平成25年3月専攻科修了生が進学した大学院及び本校専攻科のカリキュラムと類似している他高専専攻科の修了生が進学している大学院から抽出

3 調査方法及び調査時期

(1) 調査方法 アンケート用紙及び返信用封筒を郵送

(2) 調査期間 (企業) 平成25年12月24日(火)～平成26年2月15日(土)

(大学院) 平成26年4月23日(水)～平成26年6月13日(金)

4 回答数

企業： 34件

大学院： 43件

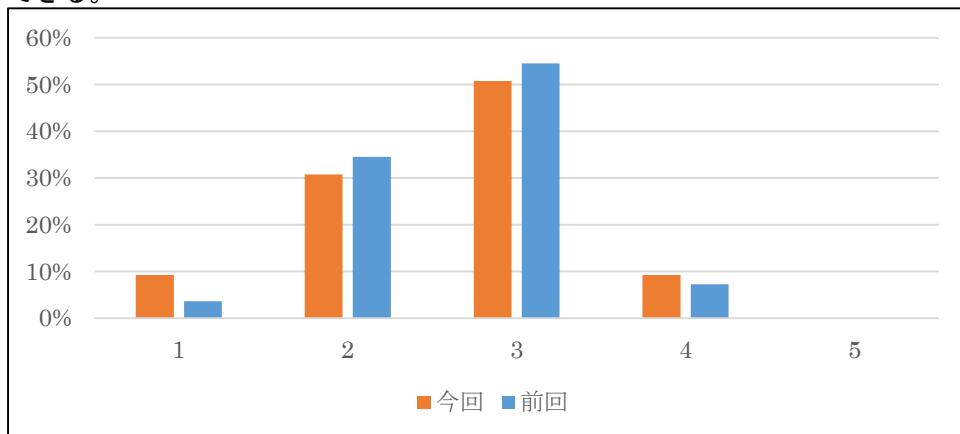
佐世保高専専攻科修了生の平均的な能力の印象についてお尋ねいたします。結果は5段階に分けておりますので、どれに該当するかを選択して下さい。目安として点数に直すと次のようになります。

(非常に高い：80点以上、高い：70点台、普通：60点台、やや不足：40-59点、不足：39点以下)

各設問に当てはまる項目の枠内を塗りつぶして下さい(□→■)。

A-1-1

数学（微分積分学、線形代数、微分方程式、確率・統計など）の基礎知識を身につけて、工学的諸問題の解決に応用できる。

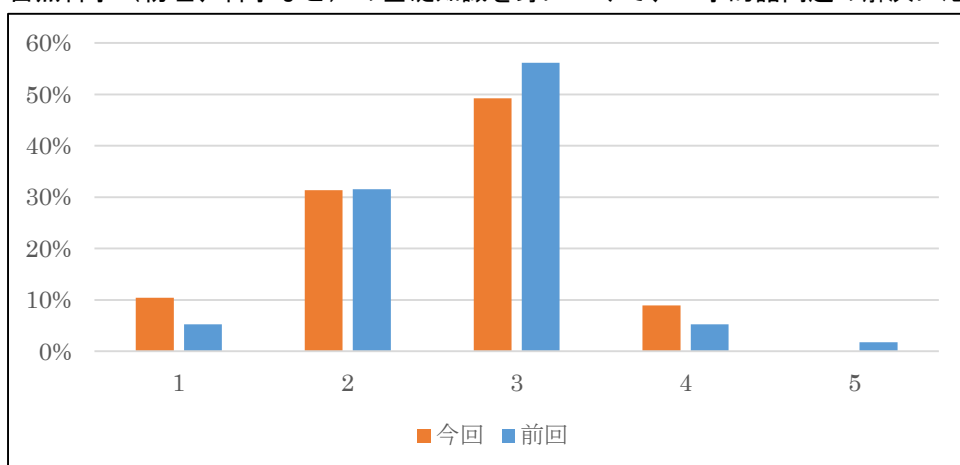


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の39%から40%へとほぼ維持している。
また、「4：やや不足」も前回の7%から9%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-1-2

自然科学（物理、科学など）の基礎知識を身につけて、工学的諸問題の解決に応用できる。

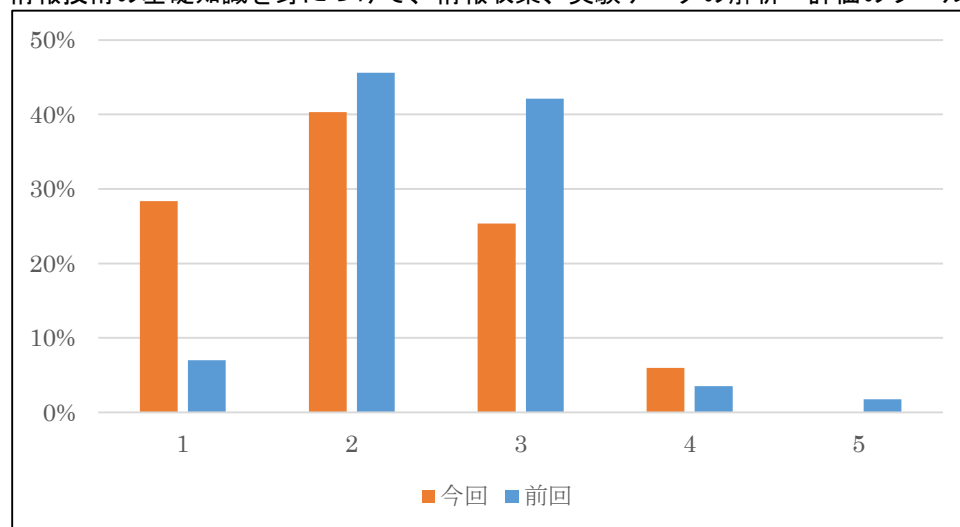


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の37%から41%へ増加し、企業・大学院からの評価は上がりつつある。
また、「4：やや不足」と「5：不足」も前回の7%から9%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-2

情報技術の基礎知識を身につけて、情報収集、実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できる。

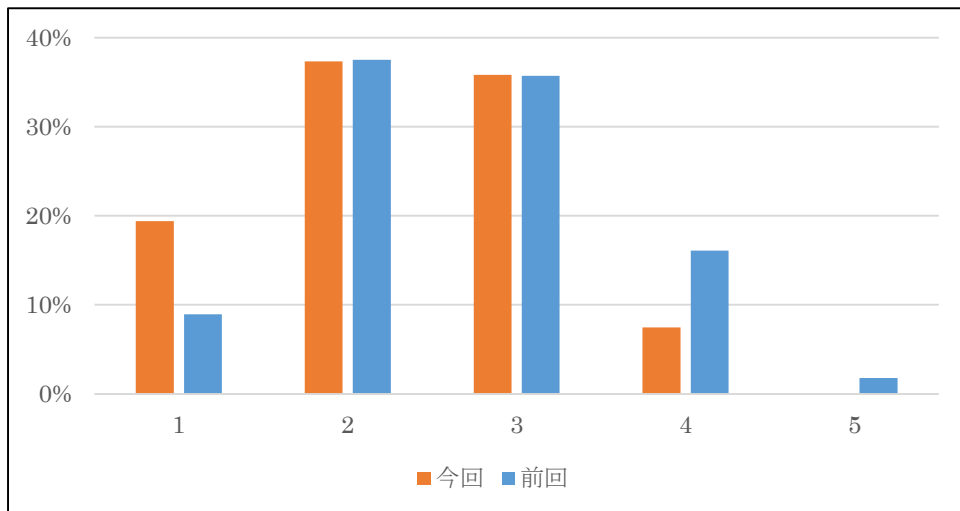


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の53%から68%まで大きく増加し、企業・大学院の評価は高い。
また、「4：やや不足」と「5：不足」は前回と同様に6%であり、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-3

基礎工学の知識を身につけて、複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できる。

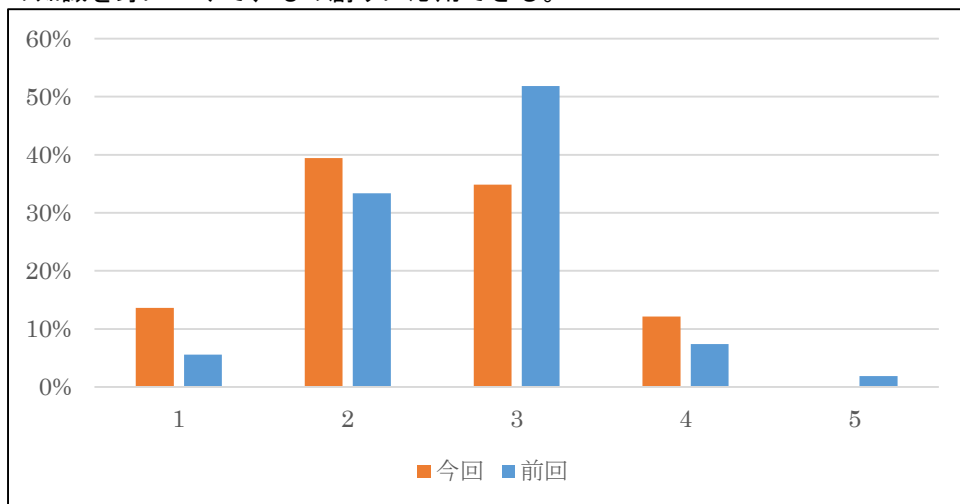


「1：非常に高い」と「2：高い」の肯定的な回答が前回の47%から56%に増加し半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。また、「4：やや不足」と「5：不足」は前回の18%から7%へ大きく減少し、改善の傾向にある。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-4

それぞれの専門分野におけるもの創りのための4つの専門科目群（材料・要素、設計・製造、評価・解析、複合系）の知識を身につけて、もの創りに応用できる。

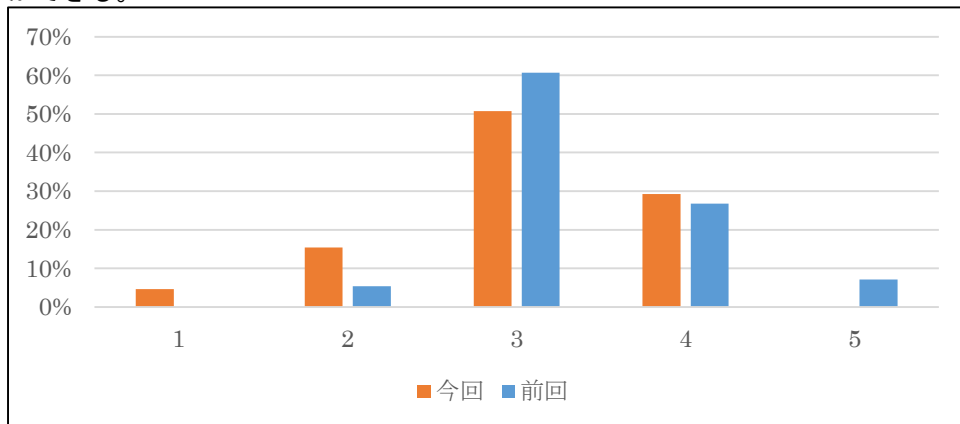


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の39%から53%へ大きく増加し半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。また、「4：やや不足」と「5：不足」は前回の9%から12%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

B-1

他の国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて、グローバルな視点でものごとを考えることができる。

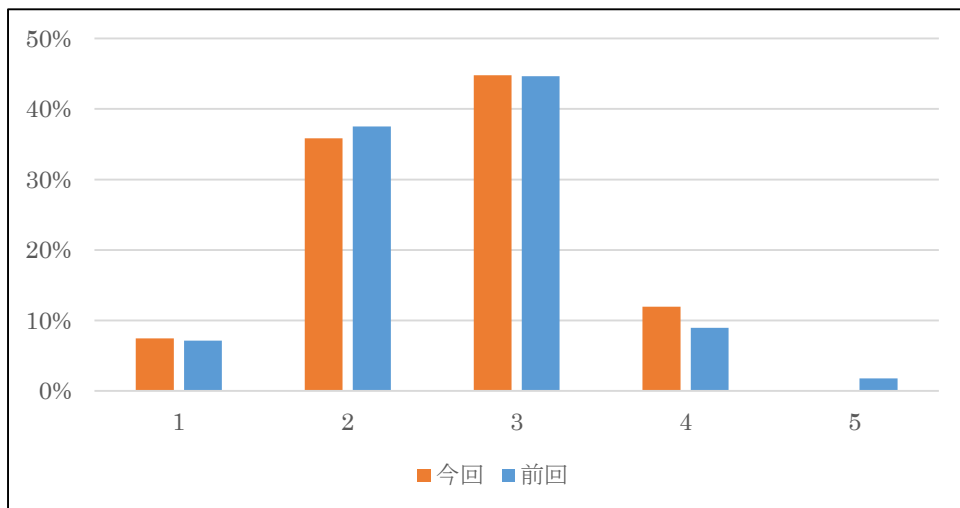


「1：非常に高い」と「2：高い」の肯定的な回答が前回の5%から20%へ大きく増加し、企業・大学院からの評価が上がりつつある。また、「4：やや不足」「5：不足」の否定的な回答が前回の34%から29%へ減少したものの、依然肯定的な割合を上回っているため、重点的な対策が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

B-2

技術が自然や社会に与える影響・効果を理解して、技術者としての責任を自覚できる。

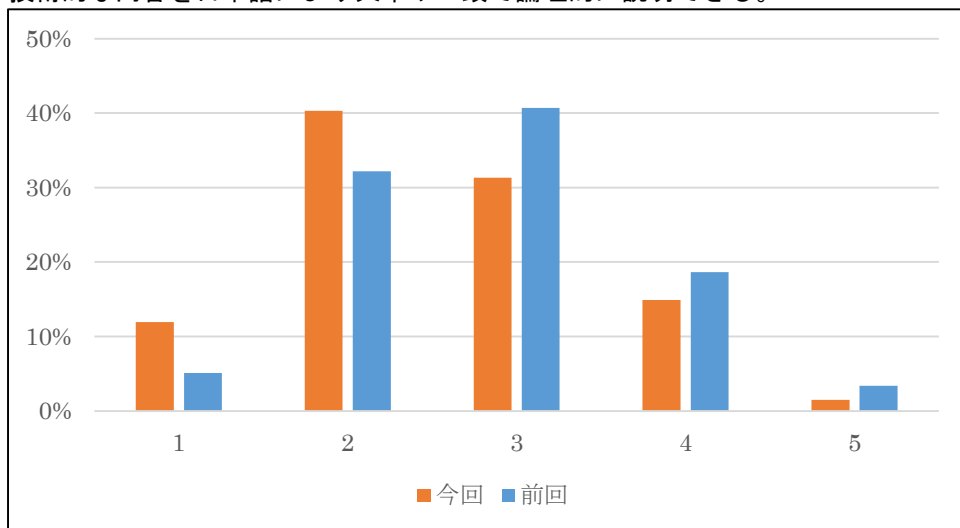


前回とほぼ同じ水準を維持しており、大きな変化は見られない。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

C-1

技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できる。

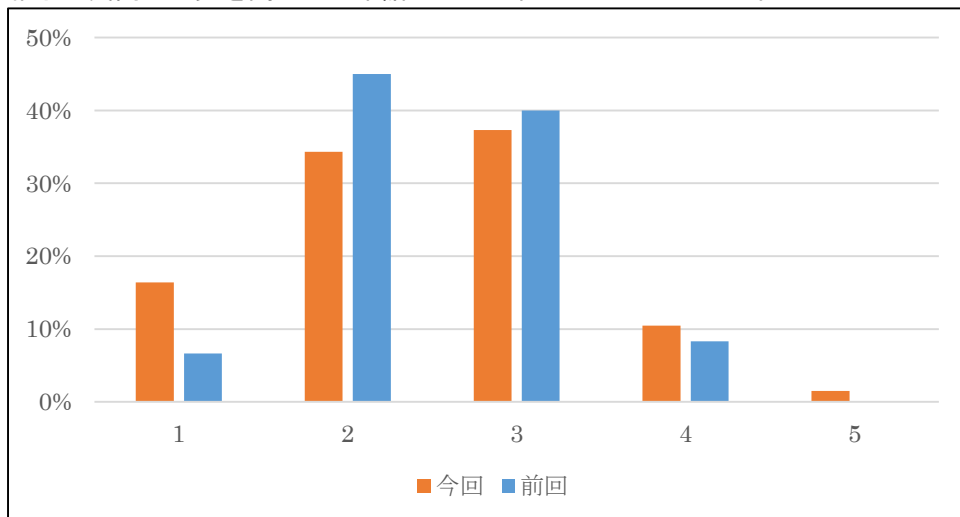


「2：高い」の回答が最も多く、「1：非常に高い」を含めると前回の38%から52%へ大きく増加し半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。また、「4：やや不足」と「5：不足」が前回の22%から16%へ減少し、改善の傾向にある。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

C-2

相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができる。

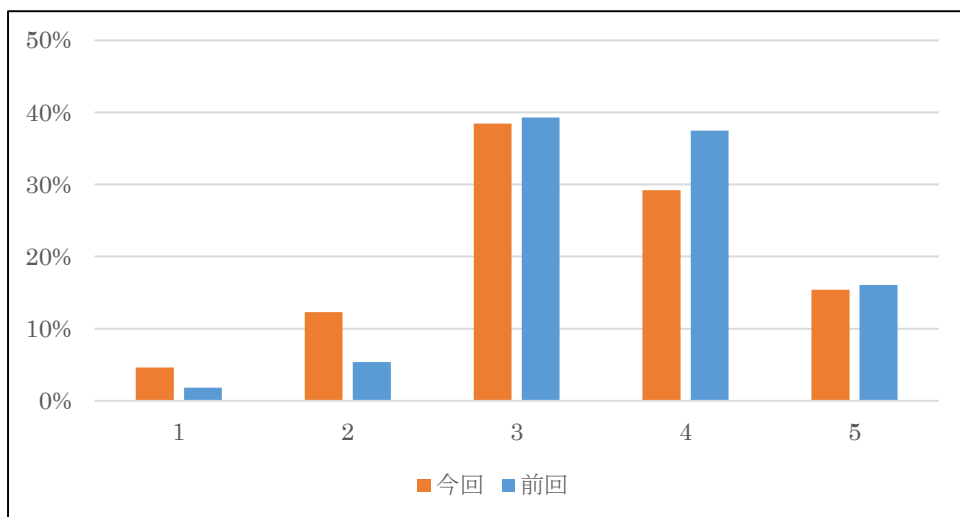


「1：非常に高い」と「2：高い」が50%と前回の52%から僅かに減少しているが半数以上であることから企業・大学院の評価は高い。また、「4：やや不足」と「5：不足」も前回8%から11%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

C-3

英語による基礎的なコミュニケーションができる。

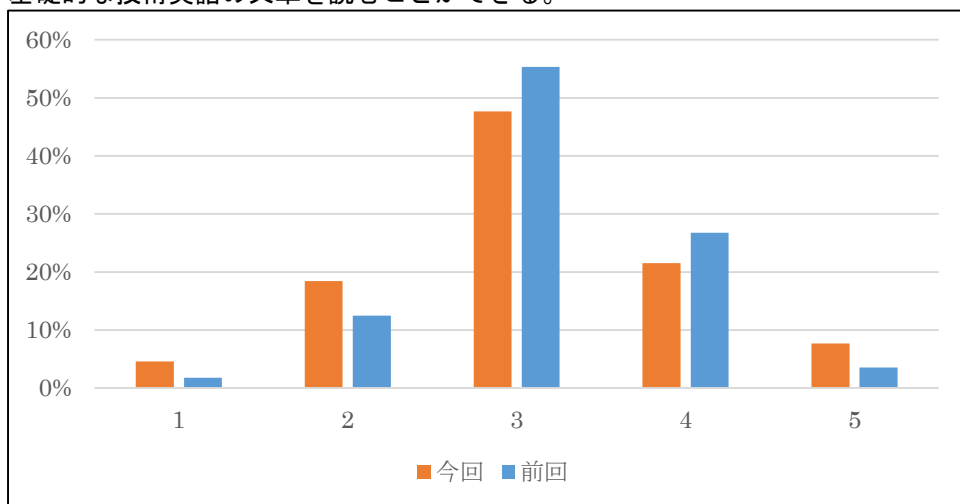


「1：非常に高い」と「2：高い」の肯定的な回答が前回の7%から17%へ大きく増加し、企業・大学院からの評価は上がりつつある。また、「4：やや不足」と「5：不足」の否定的な回答が前回の54%から44%へ減少したものの、依然肯定的な割合を大きく上回っているため、学校全体での重点的な英語教育の取り組みが必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

C-4-1

基礎的な技術英語の文章を読むことができる。

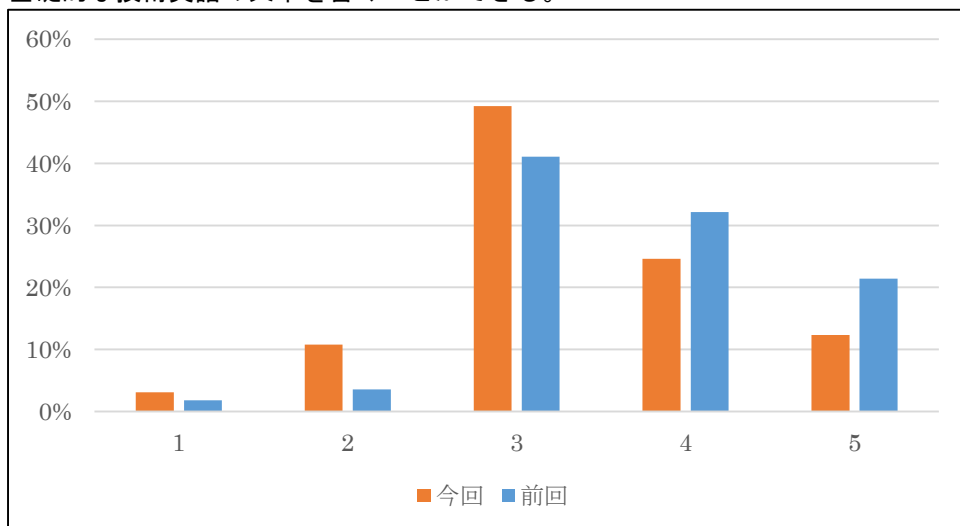


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の15%から23%へ増加し、企業・大学院からの評価は上がりつつある。また、「4：やや不足」「5：不足」が前回の31%から30%へ殆ど変化がないことから、英語能力の底上げを図る取り組みが必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

C-4-2

基礎的な技術英語の文章を書くことができる。

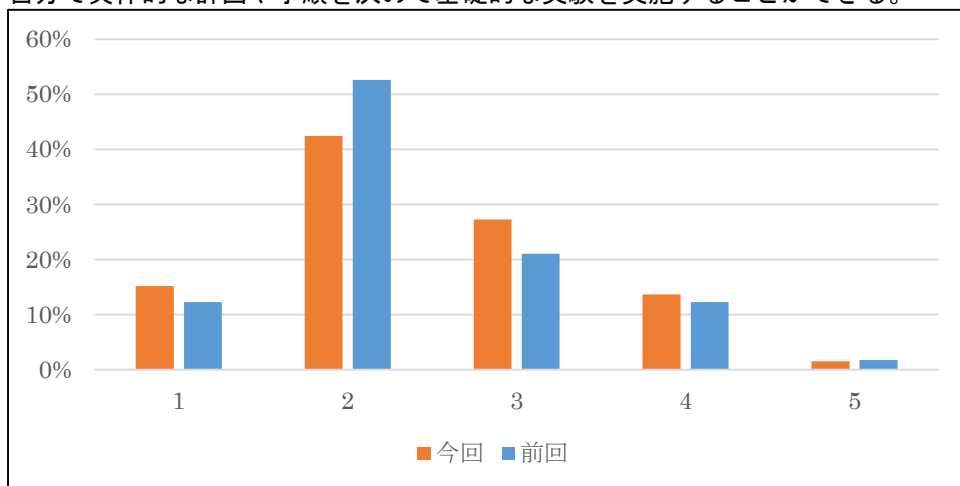


「1：非常に高い」と「2：高い」の肯定的な回答が前回の6%から14%へ増加し、企業・大学院からの評価は上がりつつある。また、「4：やや不足」「5：不足」の否定的な回答が前回の53%から37%へ大きく減少したものの依然肯定的な割合を上回っているため、学ぶ英語から使う英語の能力を身につけるための改善が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

D-1-1

自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施することができる。



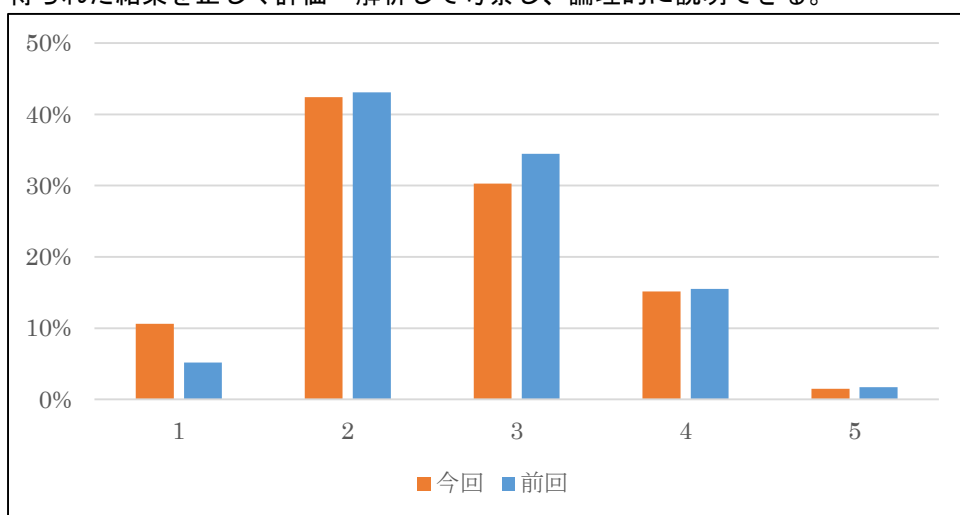
「1：非常に高い」と「2：高い」の肯定的な回答が前回 65%から 57%へ減少しているが半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。

また、「4：やや不足」と「5：不足」の否定的な回答が前回の 14%から 16%へ僅かに増加しており、卒業研究や特別研究などを通して計画性や自主性を養う指導が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

D-1-2

得られた結果を正しく評価・解析して考察し、論理的に説明できる。



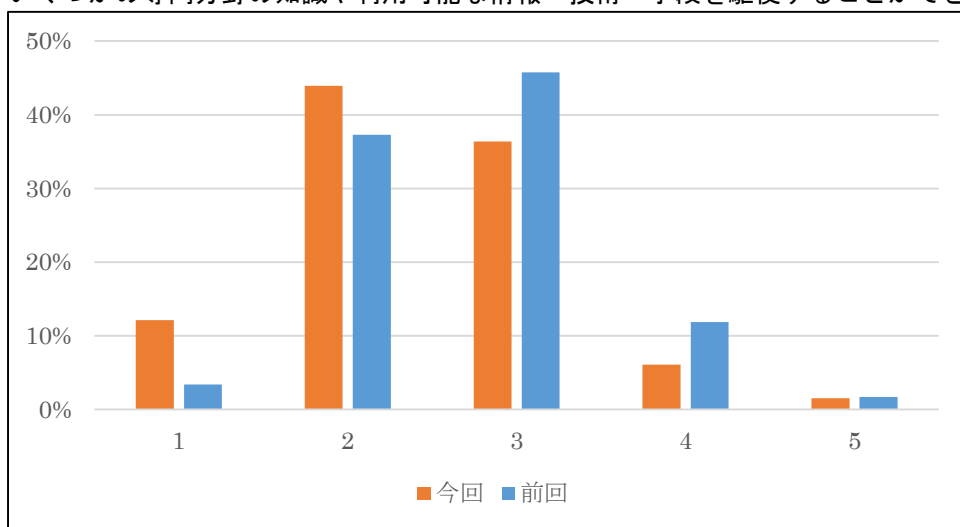
「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の 48%から 53%へ増加し半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。

また、「4：やや不足」と「5：不足」は前回の 18%から 17%へ殆ど変化がないことから、学生実験、卒業研究、特別研究などを通して得られた結果を評価・解析した上で考察する能力や論理的に説明する能力を養う指導が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

D-2-1

いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使することができる。



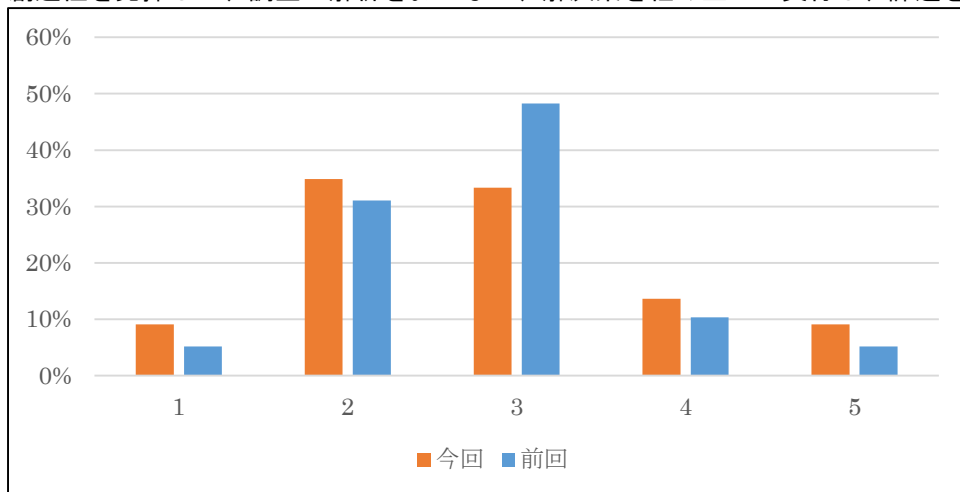
「2：高い」の回答が最も多く、「1：非常に高い」を含めると前回の 40%から 56%へ大きく増加し半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。

また、「4：やや不足」と「5：不足」が前回の 14%から 8%へ減少し、改善の傾向にある。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

D-2-2

創造性を発揮して、調査・解析をおこない、解決策を組み立てて実行し、課題を解決できる。

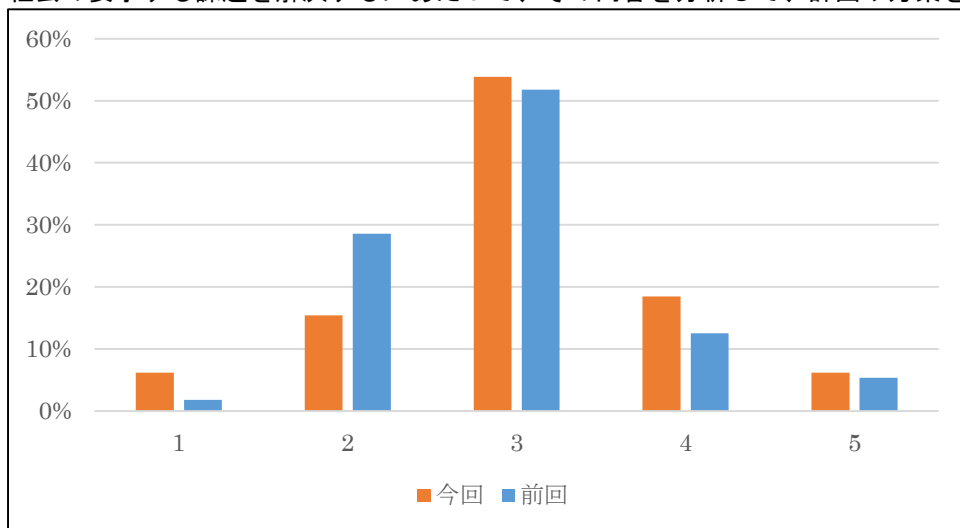


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の36%から44%へ増加しており、企業・大学院からの評価は上がりつつある。
一方、「4：やや不足」と「5：不足」が前回の15%から23%へ増加しており、様々な課題に取り組む機会を多く設け創造性や解決策を導く力を定着させるような仕組みが必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

D-3

社会の要求する課題を解決するにあたって、その内容を分析して、計画や方策を複眼的にデザインできる。

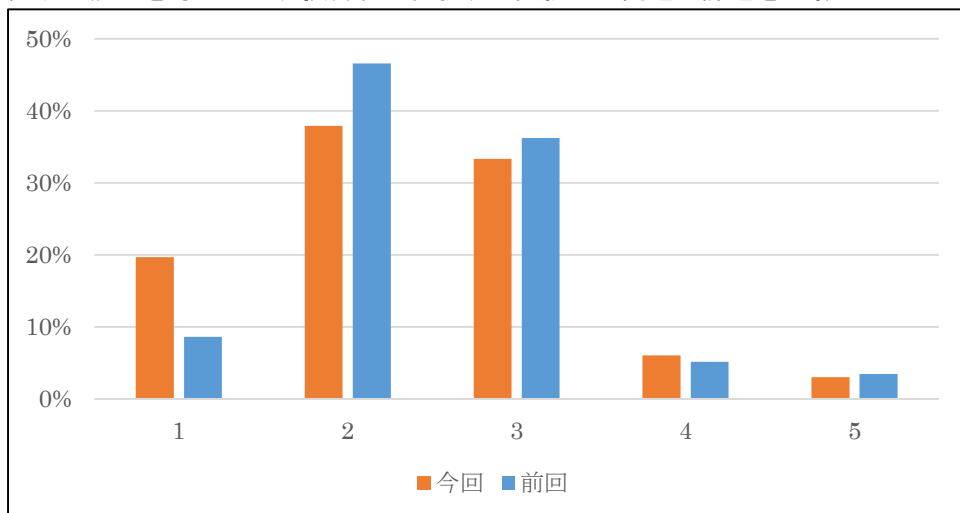


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の31%から21%へ減少している。
また、「4：やや不足」と「5：不足」が前回の18%から24%へ増加しており、社会の要求する課題を把握・明確にして解決するデザイン能力を養う取り組みが必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

D-4

実践的能力を身につけ、技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができる。

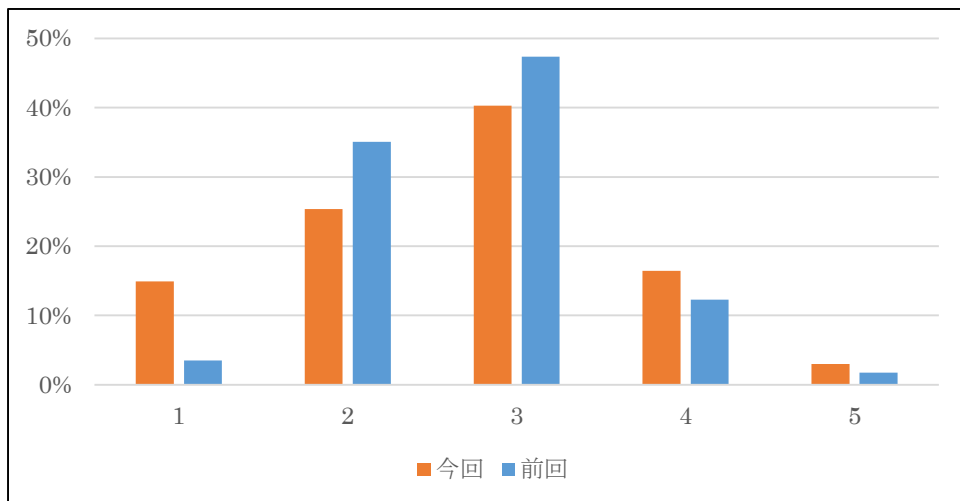


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の56%から58%へ僅かに増加し半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。
また、「4：やや不足」と「5：不足」も前回の8%から9%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

E-1

社会の要請に迅速に対応し、科学技術の進展を先導するため、自主的・継続的に学習できる。

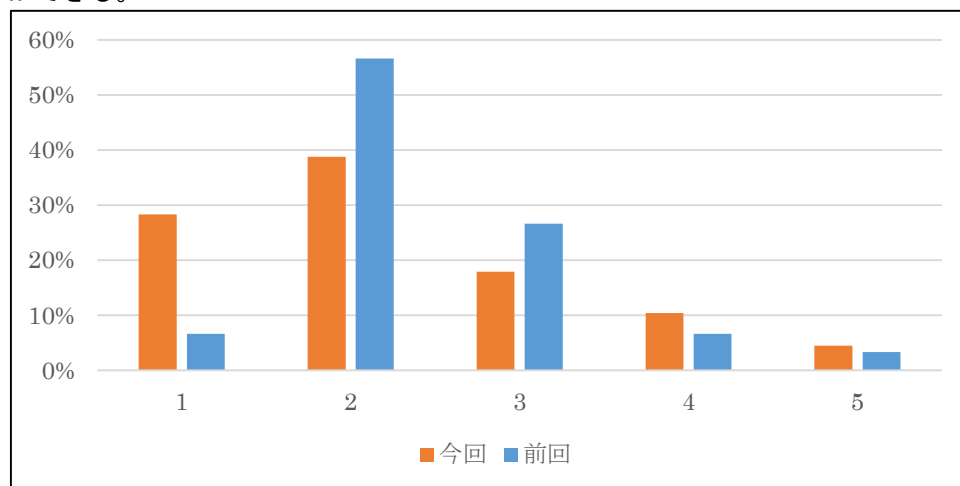


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の39%から40%とほぼ維持している。
一方、「4：やや不足」と「5：不足」が前回の14%から19%へ増加しており、改善に向けた取り組みが必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

E-2

要求された課題に対して、自立して、あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め、期限内に終わらせることができる。

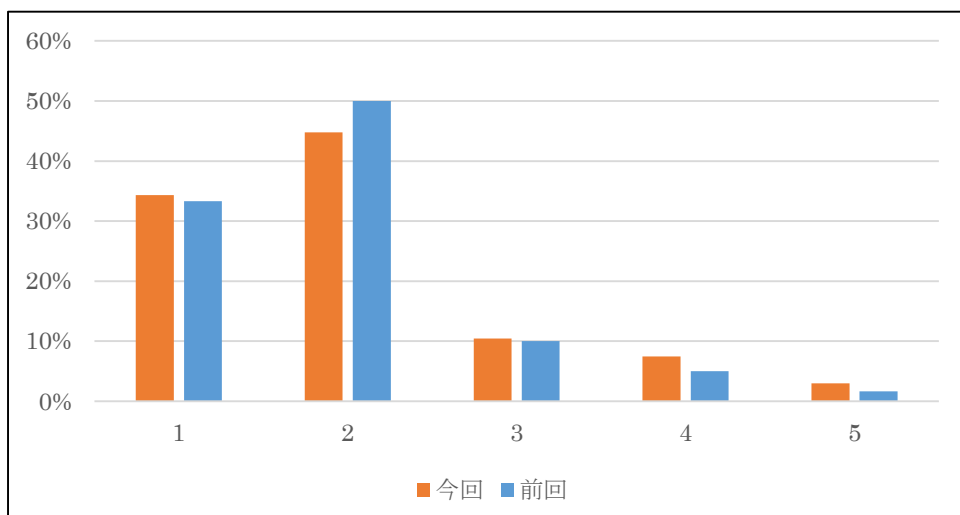


「1：非常に高い」と「2：高い」が前回と同様に67%と半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。
また、「4：やや不足」と「5：不足」も前回の10%から14%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

E-3

健全な心身を持ち、学内外（あるいは社内外）の人々と協調して行動できる。



「1：非常に高い」と「2：高い」が前回の83%から79%へ減少しているが半数以上であることから、企業・大学院の評価は高い。
一方、「4：やや不足」と「5：不足」が前回の7%から10%へ僅かに増加しているが、低水準を維持している。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足